

今月の表紙「ベンジャミン」

和名をシダレガジュマルといい、沖縄や沖永良部島のガジュマルと同じクワ科イチジク属です。幹に柔軟性があり、ねじって三つ編みに仕立てることもできます。丈夫ですが、育てる環境が変わると葉が落ちる習性があります。



副代表幹事
企業経営委員会 委員長

勝俣 宣夫
丸紅 取締役会長

政権交代

鳩山新政権が発足した。今回の選挙で国民が選択したのは、初めての二大政党による政権交代であり、歴史的転換と捉えてよいと思う。新政権は国民の選択と国家の将来を担う重みを十分に自覚するとともに、謙虚さを持ち、肩の力を抜いて政権運営に全力を注ぎ、短命に終わることのないように願いたい。

まずは、わが国の明確な中長期ビジョンを年内に示していただきたい。すなわち、国民が安心と希望を持てる国づくり、ならびに国益を如何に実現していくかについての「骨太の方針」である。最近の日本の政治は選挙で勝利することが主目的になり、政策がバラマキ合戦、ポピュリズムに走る面がなかったとは言い切れない。新政権には、来年の参院選挙目当ての迎合的政策にとらわれることなく、国のかたちを提示し、国民の痛みを率直に示すことも含め、強いリーダーシップを期待したい。

第二に、新政権はマニフェストに沿った政策を実行することが基本である。しかし、長期間、政権から遠ざかっていたため、正確な実態把握ができないまま、選挙目当ての政策がマニフェストに盛り込まれていることは否めない。今後、個々の政策あるいは全体の方針の中で、整合性が取れない部分や財源不足などから修正せざるを得ない項目が出ることも予想される。そうした情勢の変化には、説明責任を果たし、国民の理解を得ることを前提に、マニフェストの修正も含め柔軟に対応していただきたい。

第三に、日本の首相の在任期間は他国に比較して短い。さらに、閣僚は猫の目のように次々と代わっている。グローバル化が進む中、国際会議が非常に増えているが、会議が行われる度に大臣が交代しては、他国の大臣との信頼醸成は難しい。それでは、国際交渉のリーダーシップを取ることは論外となり、世界における日本のプレゼンスは低下しよう。また、大臣の在任期間が安定しなければ各省庁からの信頼も失い、新政権の目指す脱官僚・政治主導も画に描いた餅となろう。

政局が日々動く中で、国民に対し判断材料を提供し「世論」を形成しているメディアは、新政権を「忍耐と我慢」をもって見守ることも必要である。確かに、新政権の経験不足は否定し難く、迎合型のマニフェストを掲げているかもしれないが、それを承知で政権交代を実現したのは国民の意思である。徒いたずらに新政権の足を引っ張ることなく、早急に成果を期待することもせず、次の解散までの実績によって客観的に判断していくことが必要だと思う。

Contents

- 01 巻頭言
勝俣宣夫「政権交代」

- 02 特集
リーダーシップ・プログラム
第5期(2008年度)活動レポート

- 08 2009年9月景気定点観測アンケート

- 09 リレートーク
山本裕二「白鳥栄一さんを偲ぶ」

- 10 委員長インタビュー
地方行財政改革委員会 池田弘一

- 11 経済同友最前線
地方行財政改革委員会 中間報告書
「地域主権型道州制の導入に向けて」
中国委員会
ミッション報告と石原邦夫委員長インタビュー
会員懇談会
ジャック・アタリ氏講演
米ミルケン研究所
マイケル・クロウデン所長との懇談

- 18 コペンハーゲン通信
「オリンピック招致の舞台裏」

- 19 同友会スケッチ
2009年9月の記録と11月の予定
直嶋正行経済産業大臣との面談
小沢鋭仁環境大臣との面談

- 21 新入会員紹介
2009年9月18日現在の入退会者

- 22 私の思い出写真館
宮内義彦「リース業 事始め」